

産地偽装でヒット曲を！

三重と岐阜は名古屋の庭？

歌うだけで訪れた気になれるご当地ソング。

伊勢志摩、熊野、奥飛驒、柳ヶ瀬、長良川と、歌われるのは三重と岐阜。

歌もコンサートも「名古屋飛ばし」で、名古屋は歌にならない。

ベテラン歌謡アナウンサー、「東海の裕次郎」こと松原敬生さんに聞いた。

ラジオパーソナリティ

松原敬生

●まつばら・たかお 1944年生まれ。名古屋出身。「ミッドナイト東海」「ぶっつけワイド」など、東海ラジオで数々の人気番組を担当。1979年には局アナでありながらメジャーデビューを果たす。現在も「松原敬生の日曜も歌謡曲」など歌謡番組を担当。

歌好きなのに歌われない街

——東海三県向けのラジオ放送で長年、歌謡番組を担当されている松原さんから見て、このエリアの歌謡曲事情に何か特徴はありますか？

とにかくカラオケ文化が盛んな土地だね。全国的に見てもカラオケ喫茶の数は多いし、歌唱人口が多いか

ら、歌い手さんもキャンペーンをたくさん展開する。自分の曲を歌ってくれる人が多いからね。ファンが多いため、劇場公演をしてもチケットの枚数が出る。なので、歌手の皆さんから、東海地区はありがたいところだと思われるだろうね。

——カラオケが盛んということは、ご当地ソングもよく歌われる？

東海地区のご当地ソングとしてヒ

——では、名古屋のご当地ソングとなるとどうでしょう。

ないね。ない。いや、実際ないわけじゃないんだよ。売れた曲がない。地元の人でも歌わない。たとえば、石原裕次郎さんが名古屋を舞台にした「白い街」を出している、名古屋のご当地ソングとしてはかなり売れたほうだけど、裕次郎としては全然メジャーな曲じゃない。北島三郎さんも大ヒットの「函館の女」に始まる「女シリーズ」で「なごやの女」って曲を出しているけど、残念ながらほとんど知られていない。

歌の世界では、「名古屋」と「三重・岐阜」は、まったくの別物として考えたほうがいいね。

なぜ歌われないのか？

——ではまず、名古屋についてお聞

きます。なぜ名古屋を舞台にしたご当地ソングはヒットしないのでしょうか。

いくつか理由はあると思う。まずこれは、どの作詞家の先生も言うんだけど「名古屋」という単語自体がネックになってる。「や」で終わる三音を、どうメロディに乗せても情緒がわかないって言うんだよ。ヒドい話だよ。でもこれは決定的な問題だよ。

「名古屋」を避けて、ピンポイントの地名を拾い集めても、名古屋には情緒のある良いニュアンスの地名がない。唯一、イケそうな地名は「白壁町」くらいかなって思うよ。

さらに、実際に情緒があるかと問われても難しい。戦時中に名古屋では大空襲があつて、街全体が焼け野原になってしまった。だからこそ都市計画がうまくいって、大きな道路

の使い勝手のいい街になった。一方で、裕次郎の「白い街」のイメージはよく合致しているけど、白けた街のようにも感じてしまう。逆に言えば近代化しすぎてしまった。昭和のころから、未来都市を実現させてしまっている。

やっぱり歌になるのは、山だったり川だったりなのよ。名古屋は絵になる山も川もない。岐阜は、市内を長良川が流れているのが大きい。庄内川では……ダメだねえ。郡上八幡も歴史と踊りとお城と川、絵になるじゃない。三重もそう。海と山が近くて、伊勢神宮と五十鈴川の景色なんて最高でしょ。想像しただけで詩情をくすぐり、風景の匂いが漂ってくるわけ。その匂いを歌詞に取り入れることで、曲の影響力を増している。名古屋にはその匂いがない。

——味噌の香りではダメですか。